

【キーワード】

〔施設種別〕 ■高齢者施設 ■障がい者施設 ■子ども施設 □住宅 ○
 〔運営主体〕 □市区町村 ■法人 □NPO □個人 〔補助金〕 ■内閣府 □国土交通省 □厚生労働省 ○
 〔建物形式〕 ■1棟単体型 □複数棟集合型 □団地型 〔建物状況〕 ■新築 □増築 ■改修 □一部改修 □既存
 〔対象者〕 ■高齢者 ■障がい者 ■子ども ■ファミリー ■多世代



写真1. 外観写真

石川県白山市に建設された地域コミュニティ施設である。障がいを持った方々も健常な地域住民の方々もだれもが等しく利用できる、分け隔てのない地域の役割を果たそうというものである。様々な人びとが「ごちゃまぜ」に集まり、交流できる場所となり、施設全体が障がい者の就労支援の場となっている。

■施設概要

所在地：白山市北安田町 548 番地 2

施設種別：クリニック

保育園、児童発達支援、放課後等、DS 保育所等訪問、指定特定相談（計画作成）、一般相談（地域移行・定着）、障碍児相談就労継続 A 型・就労継続 B 型・生活介護居宅介護、行動援護、同行援護、通院介助、重度訪問介護施設、グループホーム

運営主体：社会福祉法人佛子園

延床面積：4704㎡

構造・階数：鉄骨造 2 階建

運営開始：2016 年 10 月

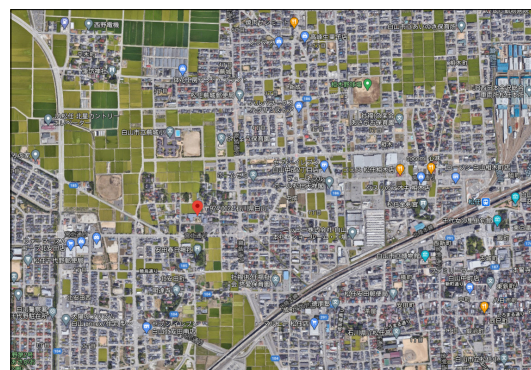


写真2. 周辺環境 (googlemap より)

社会福祉法人佛子園が発足された白山市は、金沢市からみて南部に位置しアクセスが良く、近年ベッドタウンとして人口が増えている。

■運営概要

従来の福祉施設にはそれぞれの福祉分野が互いの領域を守ろうとする縦割り体質の問題があり、高齢者や障害者、子供たちの交流が促進されるようなスペースをつくるのが困難であった。しかしこの行善寺では、様々な人びとが交わることが豊かさや賑わいを生むと考え、さらに従来の福祉施設のような「支えられる」関係ではなく、高齢者が子どもたちを「支える」役割を担うなど、利用者が活躍し生きがいを感じられる機会をつくることを理念としている。また、地方都市においては少子高齢化が



写真3. 施設を側道から見る。

住宅地のなかにひっそりと立地している。地域コミュニティの拠点として、賑わいがありつつも、知る人ぞ知る雰囲気となっている。

参考文献

- 1) 2017年グッドデザイン賞受賞一覧 (<http://www.g-mark.org/award/describe/46041>)
- 2) 平成29年版高齢社会白書(全体版) 内閣府
参照 平成30年6月29日
- 3) 「生涯活躍のまち」に関する取組事例集 平成29年3月 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 (委託先:(株)野村総合研究所)
参照 平成30年5月31日
見学日時:2018.5.31
見学者:東京電機大学 建築・環境計画研究室
修士2年 齋藤亮太
学部4年 榎村賢
押尾萌加
高橋亮哉

急速に進み、旧来地域社会が備えていたつながりや賑わいが失われつつある。行善寺では周辺にある既存のグループホームや新たに設置予定のサービス付き高齢者向け住宅と連携し、周辺地域一体となったタウン型の生涯活躍のまちを目指している。地域の誰もが日常的に集まることのできる場所をつくることによって地域コミュニティの再構築を目指している。

■背景と経緯

社会福祉法人佛子園(以下、佛子園)は、白山市にある行善寺に地域の戦争孤児を預かることから始まり、1960年3月に社会福祉法人として開設した。現在、佛子園では、お年寄りから若者・子供、元気な人・そうでない人も、障害のある人・ない人も、同じ町で「ごちゃまぜ」で暮らせる地域づくりに取り組んでいる。この「ごちゃまぜ」のまちづくりの原点は、同石川県内小松市野田町の三草二木西園寺にある。廃寺を温泉にし、地域コミュニティの場として復興。障害がある人もない人も、子供も高齢者も交わるコミュニティとして広がり、野田町地域の世帯数は、運営時から、9年間で55世帯から71世帯に増



写真4. B's 行善寺全体の間取り

行善寺は、エントランスから本堂、高齢者DS、食堂、温泉というプロセスを得て中心部の広場に出る。中心部の広場に向けて各事業所や商店が開口を広げていることで、「ごちゃまぜ」の理念に対して忠実に活動を展開できる体制となっている。

加した。これらの「ごちゃませ」の取組に対する知見をもっていた佛子園では、当法人発祥の地である行善寺のある白山市において、地域のコミュニティ拠点「B's 行善寺」を2016年10月に開設し、3キロ圏内のサービス付き高齢者住宅や12軒のグループホーム、医療施設等と連携したタウン型のまちづくりを計画し、新たな「ごちゃませ」のまちづくりに取り組みを始めた。

■具体的な取組

拠点内には、温泉、そば屋、住民自治室、保育園、スポーツジム、児童発達支援センター、クリニック等があり、障害者就労支援や通所介護・短期入所サービス等を行っている。特にスポーツジムの「GOTCHA!WELLNESS」とクリニック「B's Clinic」が町のかかりつけとして健康をサポートしていることが特徴的である。「GOTCHA!WELLNESS」は主に、地域住民の健康促進としてのフィットネスクラブであり、朝のストレッチ体操やスイミング教室、機器を使った美脚フィットネスまで行うことで、子供向けのダンス教室から高齢者の元気な体作りまで強度別のプログラムが備わっている。「B's Clinic」では、まちのかかりつけの診療所として内科クリニックを運営している。地域の人々が訪れたいと思う拠点作りを地域の人々と模索しながら、佛子園が取り組んでいる結果がある。その他にも旧特別支援学校を活用した体育館では地域住民が無料で使用することが可能であり、また、憩いの場になる温泉や足湯、食事処、カフェに加え、住民自治室もある。また、地域の人々による敷地内での朝市が毎月開催され、その収益の一部は、地域住民が町のために使用方法を考える仕組となっている。住民自治室の中には、コーヒーマーカーと住民のマイマグカップが置いてあり、誰でも安価にコーヒーを飲むことができるようになっている。このような地域の人々が行う拠点作りは、結果として、高齢者が外に出るきっかけを作ったり、スポーツジムの利用率の向上に繋がったりしている。



写真4.GOTCHA!WELLNESS ルーム（佛子園 HP より）
高齢者向け体操から本格的なフィットネスまで展開している。機材も充実している。



写真5.行善寺やぶそばの食堂

高齢者や障碍のある方たちの就労の場として機能している。品揃えも充実しており、食堂やカフェとしても利用できる。



写真6.「ごちゃませ」な広場（佛子園 HP より）

この広場は、地域の子どもたちが自由に入出入りして遊んでいる。それらを高齢者やスタッフが見守り役として担う、地域コミュニティの場として機能している。